

社員の個人情報不正入手や取引先と謀って架空請求等を行ったケース、製品事故や粉飾決算等
企業における刑事事件発生後の実務対応と法的留意点
 私生活含む社員等による刑事事件への対応、企業が加害者の場合や役員の責任となる場合のポイント

- 日 時● 2016年 9月 2日 (金) 14:00~17:00
- 会 場● 企業研究会セミナールーム (東京・麹町)
- 講 師● 弁護士法人 第一法律事務所 弁護士 柳原 克哉 氏

【略歴】 1992年10月司法試験合格。1993年3月名古屋大学 法学部 卒業。1995年4月司法修習修了(47期)。1995年4月、検事任官。東京地方検察庁、大阪地方検察庁等歴任。2006年3月、検事退官。2006年4月、弁護士登録(第二東京弁護士会)。一般企業法務に加え、コンプライアンスや企業不祥事・製品事故の調査・対応、それらに伴う民事・刑事事件等への対応等を扱う。
 【著書】 『アジアの法整備レポート: ヴィエトナムと法整備』 (月刊 法律のひろば 平成13年7月号, 9月号, 11月号, 平成14年1月号, 3月号, 5月号ぎょうせい) 他。

◆開催にあたって

多くの企業において、日々意識することは少なくとも、従業員の私生活の行いや日常における企業活動、従業員・役員の行為がある日突然刑事事件に発展するリスクが潜んでいます。

また、事件発覚後の対応を誤るとさらに大きな問題に発展する危険性があるため、非日常的な突発事象に対応する際の留意点や、企業としてまず確認・検討すべき事項を事前に押さえておく必要があります。

本セミナーでは、情報漏えいや社員間トラブル、架空請求や談合・贈収賄等の様々な事例を交え、実際に刑事事件となるような事件が発生・発覚した際の企業が行うべき実務対応のポイントについて、法律的な観点から解説致します。

◀詳細は裏面をご覧ください▶

●受講料● 1名 (税込み、資料代含む)

正会員	32,400円	本体価格 30,000円
一般	35,640円	本体価格 33,000円

- 申込書をFAXいただくか、当会ホームページよりお申込みください。後日(開催日1週間~10日前までに)受講票・請求書をお送り致します。
- 申込書をFAXでご送信いただく際は、FAX番号をお間違えないようご注意ください。
- よくあるご質問(FAQ)については当会ホームページでご確認いただけます。(〔TOP〕→〔公開セミナー〕→〔よくあるご質問〕)
- お申込後のキャンセルは原則お受け致しかねますので、ご都合が悪くなった際は、代理出席をお願いいたします。
- 最少催行人数に満たない場合は、中止とさせていただきます。

一般社団法人企業研究会

担当: 田中 E-mail a-tanaka@bri.or.jp
 〒102-0083
 東京都千代田区麹町 5-7-2 麹町 M-SQUARE 2F
 TEL 03-5215-3516 FAX 03-5215-0951

一般社団法人企業研究会 セミナー事務局宛 FAX 03-5215-0951

*当会ホームページ (http://www.bri.or.jp) からもお申込みいただけます。

161396-0305(※)		2016.9.2	
[申込書] 企業における刑事事件発生後の実務対応と法的留意点			
会社名	フリガナ		
住所	〒		
TEL		FAX	
ご氏名	フリガナ	所属	
		役職	
E-mail			
ご氏名	フリガナ	所属	
		役職	
E-mail			

*お客様の個人情報は、本研究会に関する確認・連絡、および当会主催のご案内をお送りする際に利用させていただきます。

社員の個人情報不正入手や取引先と謀って架空請求等を行ったケース、製品事故や粉飾決算等

企業における刑事事件発生後の実務対応と法的留意点

私生活含む社員等による刑事事件への対応、企業が加害者の場合や役員の実務責任となる場合のポイント

● プログラム ●

■講師 弁護士法人 第一法律事務所 弁護士 柳原 克哉 氏

- 解説 -

14:00

I. 企業活動の中で刑事事件が問題となる場面やその状況について

(1) どんな場面で刑事事件が問題になるのか

(2) 刑事事件で留意すべきことは何か

～真の被害者は誰か／捜査機関や被害者へはどのように対応すべきなのか

II. 社員等による刑事事件

(1) 社員等が逮捕された場合の会社対応

《社員が私生活の行為により逮捕されたケース》

・会社としてすべきこと①

～前提情報の確認／確認すべき事項と事実確認のポイント／確認の方法

《社員が社内の個人情報を不正に入手したケース》

・会社としてすべきこと②

～役員等責任ある立場の者の犯罪事例／業務との関係性・関連性のある犯罪の場合／
業務中の犯罪・業務と関連性のある犯罪事例

・会社として検討・対応すべき事項／処分とその時期における留意点

(2) 社員間トラブルと刑事事件（会社はどのような立ち位置で、どう対処するのか）

《懇親会で上司から叱責や暴力を受けたケース》

・確認すべき事実／確認方法／トラブルの原因・背景別の判断基準について／

・被害者の説明と加害者の説明が食い違った場合／謝罪などのタイミングと会社の関わり方／

・処分と再発防止

(3) 内部通報と刑事事件（どのような場合に刑事事件にするのか）

(4) 社員等による使い込み、架空請求、水増し請求等と刑事事件

《社員が取引先と謀って、架空請求等を行ったケース》

・どのような場合に刑事告訴すべきか／どのような調査・準備が必要か／

・告訴・告発時の最低限のチェックポイント

III. 企業による刑事事件

(1) 加害者としての刑事事件

・会社のためは言い訳にしかない

・談合・贈収賄／製品等の事故／粉飾決算

(2) 役員の実務責任

・役員は民事責任だけでなく、刑事責任を問われることがある

・どのような場合に刑事責任まで問われるのか

・逮捕・起訴された場合の対処

17:00

IV. その他

※講師と同業企業・同業種の方はご参加頂けない場合がございます。予めご了承下さい。